

北海道農業の特徴

北海道の農業は、広大な大地を活かし、稲作、畑作、酪農など大規模で土地利用型の生産性の高い農業を展開しています。平成26年の農業産出額は1兆を超え、全国の1割以上を占めています。

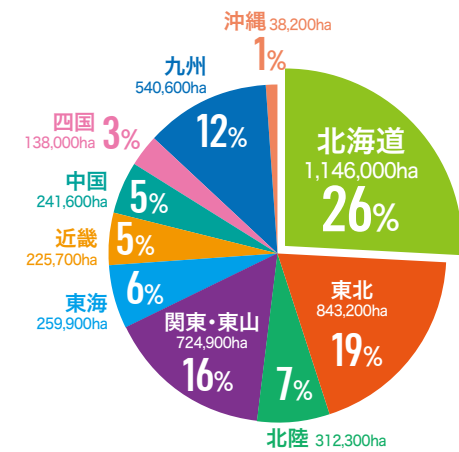
また、北海道の食料自給率は208%（平成26年）で、わが国の食料基地として、食の安定供給に貢献しています。



耕地面積について

国内の耕地面積内訳（H28）

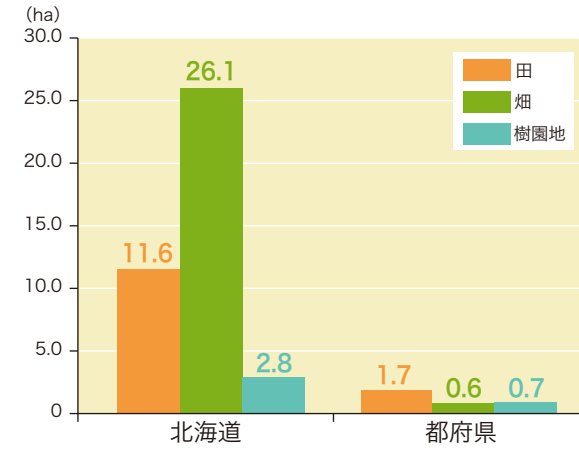
資料：耕地面積調査（農林水産省）



北海道の耕地面積は、全国の1/4を占め、その広さを生かして米、野菜、果物、飼料作物など、さまざまな作物が作られています。

一経営体あたりの耕地面積の比較（H28）

資料：農業構造動態調査（農林水産省）

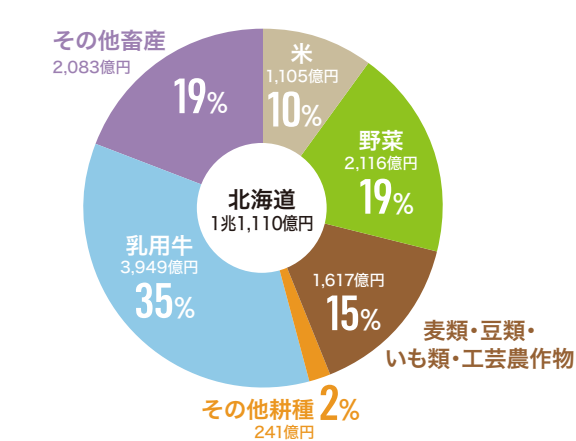


また、スケールの大きさも北海道農業の特長です。一経営当たりの耕地面積を見ると、北海道の田・畑は、それぞれ都府県の約7倍、44倍の規模となっています。

農業産出額について

北海道農業産出額内訳（H26）

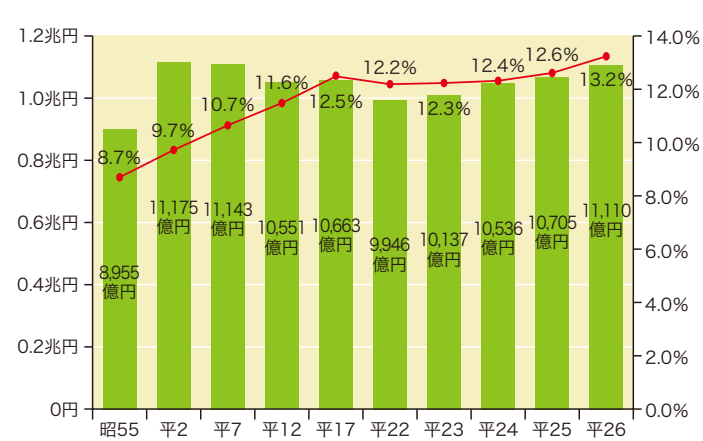
資料：生産農業所得統計（農林水産省）



北海道の農業産出額の内訳は、乳用牛が最も高いですが、続く野菜類、その他の畜産、米、麦類・豆類・いも類など、バランスの良い構造となっています。

北海道の農業産出額の推移

資料：生産農業所得統計（農林水産省）



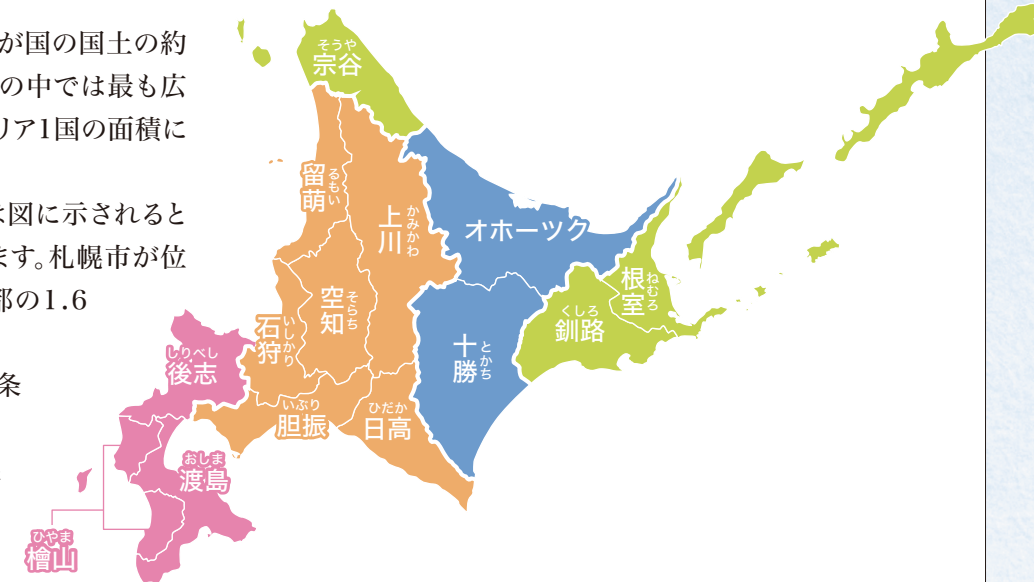
平成26年の農業産出額は1兆1,100億円と都道府県では第1位、全国の13.2%を占める額となっています。

北海道農業の地域で異なる特色

北海道の面積は83,424km²、我が国の国土の約22%を占めています。都道府県の中では最も広く、実に東京都の38倍、オーストラリア1国の面積に匹敵します。

この広さもあって、北海道内には図に示されるとおり、14の区域に分けられています。札幌市が位置する石狩地方だけでも東京都の1.6倍の広さがあります。

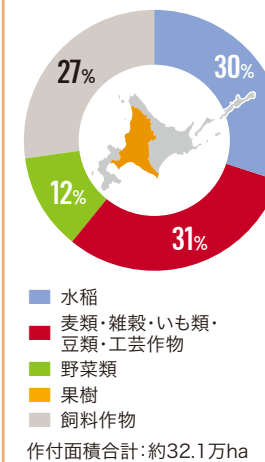
また、地域によって気象や立地条件が異なることから、それぞれの地域において特徴ある農業が展開されています。



道央地域

石狩・空知・上川・留萌・胆振・日高地方

作付面積の構成



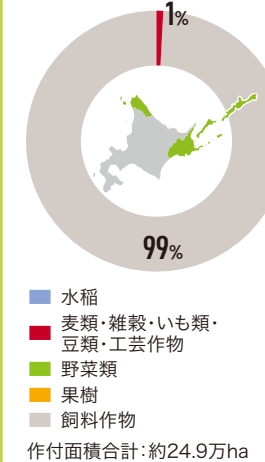
北海道の中央部から日本海に注ぐ石狩川水系に沿った上川盆地や石狩平野では、豊富な水資源と比較的温暖な夏季の気候を利用して、稲作の中核地帯が形成されています。また、札幌近郊・空知南部・上川では道外移向けを中心とした野菜の生産が盛んなほか、日高の軽種馬、上川・胆振の肉用牛など、地域の特色を生かした農業が展開されています。



道東(酪農)・道北地域

釧路・根室・宗谷地方

作付面積の構成



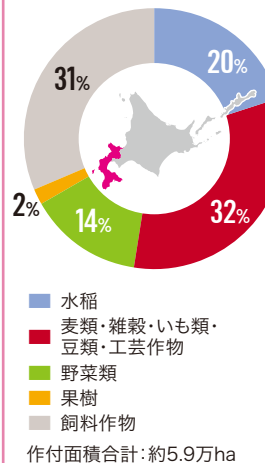
根釧、宗谷を中心とするこの地域は、広大な丘陵と湿原を含む平坦地が大半を占めていますが、泥炭地などの特殊土壌が多く、気候が冷涼であることから草場が中心となっており、EU諸国の水準に匹敵する大規模な酪農が展開されています。



道南地域

後志・渡島・檜山地方

作付面積の構成



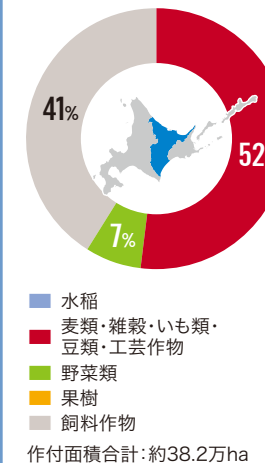
渡島半島と羊蹄山麓などからなるこの地域は、平坦部が少ないため経営規模は小さいですが、道内では最も温暖な気候に恵まれ、集約的な農業が行われています。米が各地で生産されているほか、函館近郊では施設野菜団地が形成されており、後志の羊蹄山麓が畑作地帯、後志北部が果樹地帯として発展しています。



道東(畑作)地域

十勝・オホーツク地方

作付面積の構成



十勝平野、オホーツクを中心とするこの地域は、広大な農地を生かした大規模な機械化畑作経営が行われており、豆類、てんさい、ばれいしょ、麦類を中心としたわが国の代表的な畑作地帯となっています。また、北見を中心とするたまねぎは、わが国最大の産地として道外に大量に出荷されています。



参考：北海道の農業 平成27年度版(株式会社北海道協同組合通信社)
作付面積の構成は、「2015年農林業センサス結果の概要(北海道)」販売目的・麦・雑穀の作物別作付(栽培)面積。飼料作物は牧草専用及び飼料作物を作った畑面積。果樹は樹園地面積より算出。